

第2学年 生活科学学習指導案

ろ組 男子 19名 女子 20名 計 39名
指導者 小 菌 博 臣

1 単 元 大すき やさいさん

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、第1学年小単元「きれいな花をさかせよう」の活動で、アサガオを育てる経験をし、アサガオの生長の過程を観察したり、世話したりすることができるようになってきている。また、第2学年単元「やったぞ2年生」の活動で、1年生のときに育てて収穫したアサガオの種を新1年生にプレゼントすることができた喜びから、アサガオを育てたときに身に付けた観察や世話の仕方を生かして、他の植物も育ててみたいという思いや願いをもつようになってきている。

そこで、本単元では、さらに植物へのかかわり合いを深めるために、野菜を育てて収穫する活動に主体的・能動的に取り組ませていきたい。また、その活動の中で『もっと大きく育てて、収穫したい』という願いを達成していく楽しさを味わわせながら、活動への意欲を高めようとするものである。同時に、これまでの栽培経験を基に、諸感覚を使って試行錯誤しながら野菜を育てたり、自分の育て方を友達のを育て方と比べたりして、観察や世話の仕方を自分なりに工夫する力を培おうとするものである。また、野菜が生命をもち生長していることに気付くことをねらっている。さらには、活動を通して、野菜と共に自分も成長しているという喜びや自分の力で栽培することができたという自信から、さらに植物の栽培に興味・関心をもち、心を寄せながら大切に植物を育てたり、かかわったりすることができるようになることもねらっている。

なお、この活動は『もっと、いろんな生き物を育ててみたい』という願いとして、「見て見て、小さな生きもの」の活動へと発展していくものである。

(2) 指導の基本的な立場

野菜は、毎日の食事にも用いられる大変身近な植物であり、1年生で育てたアサガオやチューリップと違う点は、収穫し食べることができるということである。このような野菜の栽培活動に、主体的・能動的に取り組む原動力となっているのが、この「収穫への期待」である。また、自らの手で苗を選び、鉢に植え、その生長を見守りながら育て、実りを待つという一連の栽培活動の中で、野菜とのかかわり合いを深め、観察で得られる発見の喜びと生長への楽しみを味わうことができる。さらに世話をし続け、その成果として収穫できたときの喜びと感動は、他では味わい難い満足感や成就感を得ることもできる。本単元で用いる野菜(ミニトマト、トマト、ナス、ピーマン、キュウリ、ニガウリ)は、栽培が比較的容易で、世話の仕方によって大きく生長したくさん収穫できる上、生長や変化が捉えやすく、諸感覚を使った観察によって多様な世話の仕方に気付くこともできる。

このような野菜の栽培活動に、子どもたちが主体的に取り組み、野菜とのかかわり合いを深めることができるようにするために、諸感覚を使った観察と、それによって得た気づきを互いに交流させることを重点化していきたい。

具体的には、まず、「野菜さんこんにちは」の活動では、これまでの栽培経験を振り返らせる中で『野菜を大きく育てて、収穫したい』という思いや願いを高め、自分の経験や好みを基に、野菜を購入させることで、意欲的に栽培活動に取り組めるようにしていきたい。次に「野菜を世話しよう」の活動では、日常でのかかわりも含めて、継続してかかわることができるように、自分の力で野菜を育てる楽しさを味わわせていきたい。また、他教科との関連を図りながら、諸感覚を使って自分の野菜とじっくりとかかわり合う環境を設定し、新たな発見や疑問をもたせたり、友達との伝え合い交流したりする活動を取り入れ、自分なりに工夫した栽培活動ができるようにしていきたい。さらに、「野菜を収穫しよう」「野菜の世話を振り返ろう」の活動では、収穫の喜びを味わわせる中で、これまで蓄積した観察カードから野菜の生長に気付かせると共に、自分の取り組み方のよさを

実感し、自分の力で育て上げることができたという自信をもたせるようにしていきたい。

なお、活動の展開においては、一人一人の実態に応じた支援をし、お互いのよさに触れ合える場を設定したり、学習したことを生かせるような教師の働きかけを行ったりしながら、活動が連続・発展していくようにしていきたい。

このような活動を通して、子どもたちは活動に没頭し、活動に対する成就感や満足感を味わうと共に、自分のよさや成長を実感し、自分への自信と自分の生活をこれまで以上によりよくしていこうとする意欲を高めることができるようになる。

(3) 子どもの実態 (対象者 ろ組 39名 数値は延べ人数)

- ＜野菜栽培への関心・意欲＞
 - 育ててみたい(37)
 - ・初めてだから(11)・食べたい(6)
 - ・好きだから(6)・観察したい(4)・他(9)
 - 育てたくない(2)
 - ・大変だから(2)
- ＜育ててみたい野菜＞
 - ・ミニトマト(22)・ピーマン(17)・キュウリ(19)
 - ・オクラ(10)・トマト(9)・ナス(7)
 - ・ニガウリ(4)・ニンジン(7)・他(3)
- ＜生活経験＞
 - 野菜を育てたことがある(12)
 - ・ミニトマト(3)・トマト(3)・ピーマン(2)
 - ・ネギ・パセリ・ジャガイモ・キャベツ(各1)
 - 育てたことがない(27)
- ＜アサガオ栽培時の観察の仕方＞
 - ・目(39)・手(34)・耳(21)・鼻(20)・口(8)
- ＜アサガオ栽培時の世話の仕方＞
 - ・水かけ(35)・施肥(30)・声かけ(8)・支柱(4)
 - ・除草(3)・日に当てる(1)
- ＜アサガオ栽培時の友達との比較＞
 - 友達のアサガオを見た(22)
 - ・アサガオへの気付き(18)(きれいだな 等)
 - ・友達の取り組み方への気付き(4)
 - 友達のアサガオはあまり見ていない(17)
- ＜アサガオ栽培時の気付き＞
 - ・栽培の楽しさや大変さ(15)・花の数,色(13)
 - ・花粉(1)・葉やつるの形,手触り(7)・生長(3)

本学級の子どもたちは、ほとんどの子どもたちが『野菜を育ててみたい』という願いをもっている。しかし、実際に育てたことのある子どもは半数以下であるため、思いや願いを達成していく楽しさを実感させながら、活動への意欲を高めていきたい。また、栽培意欲の低い子どもや、栽培経験のない子どもに対しては、思いや願いを達成させるための手立てが必要である。

植物の観察や世話については、多くの子どもが諸感覚を使った観察や水かけや施肥等の基本的な世話を知っている。しかし、野菜を育てた経験がない子どももいることから、アサガオの栽培経験を想起させ、諸感覚を使った観察をさせることで、野菜の栽培にも様々な世話があることに気付かせる必要がある。また、友達の取り組み方を自分の取り組み方に生かすまでは至っていないため、互いに比べ合ったり教え合ったりする場を設定する必要がある。

なお、全体を通して、活動で得た気付きを表現し、互いに伝え合い交流する活動を設定し、

教師の称賛や価値付け等を積極的に行っていきたい。

諸感覚を使った観察や基本的な世話等の習慣・技能面については、アサガオ栽培時に経験があるものの、しっかりと定着していないため、繰り返し指導していく必要がある。

(4) 指導上の留意点

ア 「野菜さんこんにちは」の活動では、『野菜を大きく育てて収穫したい』という思いや願いを高めるために、実物や写真を提示したり、互いに収穫したときの夢や目標を発表し合ったりする。

さらに、野菜への愛着をもたせ、栽培意欲を高めるために、春の木市に出かけ、自らの手で苗を選び購入させるようにする。

イ 「野菜の世話をしよう」の活動では、自分の力で野菜が生長したという喜びや気付きを深めるために、いつでもかかわることができるよう教室の前で栽培する。また、諸感覚を使って観察させるために、国語科「かんさつ名人になろう」や算数科「長さ(1)」と関連を図ったり、1年時のアサガオの観察を想起させたりする。活動中は、子ども一人一人を見取りながら、特に、諸感覚を使って活動できている子どもを価値付けたり意味付けたりして、全体へ広げるような手立てを行う。さらに、そのような観察を基に、友達の野菜との相違点等に気付かせることで、野菜の不思議さや面白さを実感させていきたい。なお、育て方に疑問をもったり、困ったりしたときに自分の力で工夫して解決することができるようにするために、野菜に関する図鑑や本を持ち寄らせて、図書コーナーを設け、取り組みが継続できるようにする。

ウ 「野菜を収穫しよう」の活動では、収穫できた喜びや成就感をもたせるために、収穫できた気持ちや野菜の味を紹介し合う場を設けて、学級全員と互いに喜びを分かち合えるようにしたい。

エ 「野菜の世話を振り返ろう」の活動では、野菜の生長の様子や世話の工夫、野菜へのかかわり方といった自分の取り組み方を振り返ることができるようにしたい。具体的には、これまでの野菜の生長を紹介し合い、活動して自分ができるようになったことを考えさせるようにする。

3 目 標

- (1) 『自分の野菜を大きく育てて収穫したい』という思いや願いを基に、諸感覚を使った栽培活動や友達との情報交換を役立て、自分の野菜とかかわり合う活動に進んで取り組むことができる。
- (2) これまでの栽培経験や野菜作りに詳しい木市の人や身近な人に尋ねたこと、同じ野菜を育てている友達との情報交換等を基に、諸感覚を使って自分の野菜の観察をし、試行錯誤しながら世話をすることができる。また、観察したことや世話したことを絵や言葉等で表すことができる。
- (3) 自分の野菜が生命をもち、生長していることに気づき、野菜に愛着をもって心を寄せながら大切に育てることができる。また、野菜を生長させることができた自分のかかわり方のよさに気付くことができる。

4 指導計画（全 12 時間）

活動する楽しさ	活 動 名 (意識の高まりと気づきの様相)	主 な 学 習 活 動 (時 間)	学 習 形 態 ・ 環 境 構 成 教師の具体的な働きかけ
○野菜と出合い、自分の野菜をこれかから育てていく楽しさ	・1年生にアサガオの種をプレゼントできたよ。 ・2年生でも何か育てたいな。	前単元 「やったぞ 2年生」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 野菜の栽培に興味・関心をもち、意欲的にかかわり合えるようにするために、木市で自分の苗を購入する計画を立てさせるようにする。 ・ 育て方にも目を向けることができるようにするために、店の人に育て方を聞くようにさせる。 ・ 友達と助け合う活動が生まれるように10号鉢を用意し、植える準備や移動を協力して行わせるようにする。 ・ 日常的にかかわり合うようにするために、教室前で栽培させる。 ・ 世話を工夫できるように、同じ野菜を育てている友達と見比べたりかかわりをまねしたりしながら世話をさせるようにする。 ・ 諸感覚を使って観察している子どもを称賛し全体へ広げるようにする。 ・ 気づきを自分なりの方法で具体的に記録できるようにするために、観察カードの様式を多様に準備しておく。 ・ さらに自分の野菜への愛着をもち、かかわり合いを深めるために、友達と野菜と比べる場を設定する。 ・ 野菜の生長の様子や、自分の取り組み方のよさを振り返らせるために、観察カードを蓄積させる。 ・ 自分自身のよさや成長に気付かせるために、蓄積したワークシートを基に、活動を振り返ったり、紹介したりする場を設定する。 ・ 今後の活動に意欲をもたせるために、夏季休業中の栽培方法について話し合わせる。
○自分が植える野菜を選び、購入する楽しさ	野菜さんこんにちは (4時間)	自分で育てる野菜を決め、春の木市に買いに行く計画を立てる。(1) 市電に乗って木市に行き、自分で選んだ野菜の育て方を聞きながら購入する。(2)	
○自分の手で野菜を植えることができる楽しさ	・野菜を育てたいな。 ・自分で野菜の苗を選んで買いたいな。 ・早く大きくなってね。 ・よし、大きくするぞ。	土作りをし、購入した野菜の苗を鉢に植え、これから活動したいことを話し合う。(1)	
○野菜の生長を見守る楽しさ	野菜の世話をしよう (5時間)	諸感覚を使った観察の楽しさや世話の仕方を話し合ったり、観察カードの書き方について話し合ったりする。(1)	
○野菜の観察を工夫し、かかわりを深める楽しさ	・茎の根本にぶつぶつがあるよ。何かな？ ・あ、野菜さんが倒れているよ。 ・虫がついているよ。どうしよう。 ・葉っぱの色が悪いな。 ・僕もまねしてみよう。	諸感覚を使って野菜の育ち方を観察し、世話するとともに、これからのかかわり方を話し合う。また、観察や世話をする中で、互いに困っているや、発見したことを友達と情報交換して、さらに、野菜とのかかわり合いを深める。 本時1/4 (4)	
○友達と協力して観察や世話を工夫することができる楽しさ	野菜を収穫しよう (1時間)	育てた野菜を収穫し、その喜びの気持ちを伝え、収穫後のことについて発表する。(1)	
○大きくなった自分の野菜を収穫できる楽しさ	・すごいぞ。たくさん実ができたよ。 ・おいしい。やったぞ。		
○自分の野菜へのかかわり方を実感できる楽しさ	野菜の世話を振り返ろう (2時間)	これまでの活動を振り返る中で、自分のよさやできるようになったことについて紹介する。また、今後の自分の生活の中で、野菜を工夫して作ったり、世話の仕方を工夫したりすることを考える。(2)	
○自分自身の成長に気付く楽しさ	・収穫できたぞ。 ・野菜さん、大好き。 ・もっと、他の野菜も育ててみたいな。		

5 本 時 (6 / 12)

(1) 目 標

ア 『もっとよく観察して、自分の野菜を大きく育てたい』という思いや願いを基に、進んで自分の野菜を観察することができる。

イ 諸感覚を使った観察や気付いたことを自分なりに表現する中で、自分の野菜の生長や特徴、友達の野菜との相違点等に気付くことができる。

(2) 本時の展開に当たって

自分の野菜の特徴や生長に気付き、さらに日常でのかかわり合いを深めることができるようにするために、観察して気付いたことを友達に発表する場を設定し、自分の野菜と友達の野菜を比べることができるような働きかけを行い、野菜の不思議さや面白さを実感させるようにしたい。

(3) 準 備

育てている野菜 観察カード 虫眼鏡 30cmものさし 1mものさし 探検バック 等

(4) 展 開

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
意欲をもつ	1 本時の学習について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 植えたときより、少しは大きくなっているように感じるよ。 もっと詳しく観察したいな。 <p>もっとくわしくかんさつして、○○なところを見つけよう。</p>	7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 『もっと詳しく観察したいな』という思いや願いを高めるために、野菜の写真を提示したり、これまでの野菜の生長の様子を問いかけたりする。 ○ 諸感覚を使った観察の仕方を身に付けることができるようにすると共に、本時の活動への見通しをもたせるために、具体的にどんな観察の仕方があるのか問いかけながら確認する。 ○ 諸感覚を使った観察によって様々な気付きが生まれるようにするために、新しい発見をした子どもに、どうして分かったのか問いかけ、取り組み方のよさを価値付け、広げる。
	2 観察の仕方を確認する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">試行錯誤</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">見る</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">触る</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">匂う</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">聴く</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">味わう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">友達との教え合い</div> </div> <p>諸感覚を使った観察</p>		
活動する	3 自分の野菜を観察し、カードにかく <p>野菜への気付き</p> <ul style="list-style-type: none"> ひげみたいなのが伸びてきた。 高さが 30 cm くらいに生長したぞ。 葉っぱを触るとざらざらしたよ。 茎が紫色をしているね。 おもしろい形の葉っぱをしているね。 匂うとピーマンのにおいがしたよ。 <p>個別の気付き</p>	10	<ul style="list-style-type: none"> (1) 進んで観察をしている子ども 自分なりに考えて活動していることを称賛すると共に、なぜそう考えるのか問いかけ、その考え方のよさを価値付け、広げる。 (2) 観察に戸惑っている子ども 友達の様子を見せたり、手を使って観察させたりする等、具体的な支援を行う。 (3) 観察が早く終わった子ども 観察をやり遂げたことを称賛すると共に、まだ取り組んでいない観察の仕方があれば、それに気付かせたり、友達の野菜はどうなっているか確かめさせたりする。
	4 気付いたことを発表し合い、互いに自分の野菜と比べ合う。 <p>比べたときの気付き</p> <ul style="list-style-type: none"> キュウリとニガウリはひげみたいなのが伸びるんだ。なぜかな？でも、葉っぱの大きさや色が少し違う感じがするね。 ナスだけ、葉っぱの色が違うんだ。 ミニトマトの茎には長い毛が生えているよ。 <p>関連付けられた気付き</p> <p>野菜の不思議さや面白さの実感</p>		
振り返る	5 学習を振り返り、感じたことやこれからやりたいこと等を発表し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ぼくの野菜は、他の野菜にはない、とっておきのひみつをもっていたんだね。すごいな。 もっと野菜さんのこと知りたいな。 		

生活科 公開授業 A 学びの構造図

内容項目『動植物の飼育・栽培』

<第2学年 単元「大すき やさいさん」(6/12) 授業A 2年ろ組 指導者 小菌 博臣>

授業の主張点：野菜とのかかわり合いを深めるために・・・

- 気付いたことをグループ内で発表したり互いの野菜を見せ合ったりしながら、比べ合う時間を設定します。(視点3)
- 互いの気付きを交流させ、より野菜の不思議さや面白さを実感させるようにします。(視点2)

1 目 標

- ア 『もっとよく観察して、自分の野菜を大きく育てたい』という思いや願いを基に、進んで自分の野菜を観察することができる。
- イ 諸感覚を使った観察や気付いたことを自分なりに表現する中で、自分の野菜の生長や特徴、友達の野菜との相違点等に気付くことができる。

2 準 備

育てている野菜 探検バック 色鉛筆 観察カード 虫眼鏡 30cm・1mものさし ラジカセ 等

3 子どもの学びの想定と教師の働きかけ (学習過程・学習活動・学習形態・環境構成・教師の具体的な働きかけ)

習熟	主な学習活動 (その子なりの学びの道筋)	形態	時間	環境構成 (活動場所: 教室・教室横)
意欲をもつ	担任が作った紙芝居を聞いて、感想を発表しながら、本時のめあてを設定する。 ・僕の野菜も大きくなったよ。 ・観察ってとても大切だな。 ・もっと詳しく観察したいな。	全	7	教室 教室横 (屋外) 8班 6班 4班 3班 2班 1班 7班 5班 インセクタリウム 鉢の周囲にすのこを置き、上履きのまま観察できるようにする。また、自由に見て回ることが出来るように余裕のある場作りをする。
	もっとくわしくかんさつして、〇〇なところを見つけよう。 活動の仕方を確認する。 諸感覚を使った観察・虫眼鏡の使い方 友達との交流 ・観察の仕方は、もうばっちりだよ。 ・早く、野菜さんの観察がしたいよ。			教師の具体的な働きかけ <視点1: 子どものストーリー性> T1・・・国語科「たんぼのちえ」で行っている紙芝居作りと関連を図る。予め教師が子どもの観察カードを基に紙芝居を作成しておき、それを聞かせることで、活動への意欲を高める。 <視点4: 習慣・技能の育成> T2・・・諸感覚を使った観察の仕方を身に付けさせるために、活動の前に意識付けるようにする。 T3・・・虫眼鏡の使い方についても確認する。
活動する	自分の野菜を観察し、観察カードにかく。 自分の野菜への気付き ・よく見ると、葉っぱには線が入っていたよ。クモの巣みたいだよ。 ・キュウリの花の下には、キュウリの赤ちゃんが付いているよ。	個	20	
	教師の働きかけ T5 友達の野菜も見てみたいな。 気付いたことを発表したり、互いに自分の野菜を見せ合ったりする。			
振り返る	比べたときの気付き ・どの花にも、線が入っていたよ。でも、ナスだけ色が違っていたよ。 ・ミニトマトは、花が枯れた後、付いたけど、キュウリは、花と実同時だ。	グループ	10	
	野菜の不思議さや面白さの実感 友達の野菜と比べて感じたことを発表する。 友達の野菜にも〇〇なところがあるね。野菜さんって不思議。面白いね。 これからがんばりたいことを発表する。 野菜さんのために、お世話をがんばるぞ。			
		全体	8	
				<視点1: 子どものストーリー性> T10・・・自分の野菜への愛着を深め、今後の栽培意欲を高めるために、本時を振り返り感じたことやこれからやりたいこと等を発表させる。